

吉野川水系河川整備計画の点検等について

令和5年度 第1回 吉野川学識者会議を開催

- ◎国土交通省四国地方整備局では、吉野川水系において、今後概ね30年間で実施する河川整備の目標と内容についてまとめた吉野川水系河川整備計画を平成21年8月28日に策定（平成29年12月20日に変更）し、これに基づき河川整備を進めているところです。
- ◎河川整備計画の策定を受け、計画に基づき河川整備等を実施していますが、流域の社会情勢の変化、事業の進捗状況、河川整備に関する新たな視点などを適切に反映する必要があります。
- ◎そのため、河川整備計画の点検として、河川に精通している学識経験を有する者から構成される「吉野川学識者会議」の委員による点検を令和5年12月5日に11名の委員により行い、ご意見をいただきました。会議後には早明浦ダム再生事業の現地を点検いただきました。

□開催日時：令和5年12月5日（火）

13:00～14:00

□開催方法：WEB（ウェブ）会議

会議会場：早明浦ダム・高知分水管理所 ふれあいホール

現地調査：早明浦ダム

□出席委員：11名（WEB参加含む）

□一般傍聴：インターネットによる配信



吉野川学識者会議 委員名簿

氏名	専門分野	所属
岡村 未対	地盤工学	愛媛大学大学院 教授
角道 弘文	農業水利	香川大学創造工学部 教授
鎌田 磨人	生態系管理（生態学）	徳島大学大学院 教授
河口 洋一	魚類学	徳島大学大学院 准教授
木下 覺	植物分類学	徳島県植物誌研究会 会長
金原 祐樹	文化史・文化財	徳島県立文書館 館長
上月 康則	水環境 （環境工学・生態系工学）	徳島大学環境防災研究センター 教授
柴折 史昭	鳥類	徳島希少鳥類研究会 事務局長

氏名	専門分野	所属
田中 俊夫	地域福祉	徳島大学人と地域共創センター 教授
田村 隆雄	治水計画（森林水文学）	徳島大学大学院 准教授
中野 晋	沿岸域工学・地盤工学 地震工学・防災対策（地震）	徳島大学 特命教授
平井 松午	歴史地理学・歴史GIS	徳島大学 名誉教授
松村 豊大	地域経済	徳島文理大学 教授
武藤 裕則	洪水防衛（河川工学・水理学）	徳島大学 理工学部長
山中 英生	地域づくり	徳島大学社会産業理工学研究部 研究部長
山中 亮一	水質（水環境）	徳島大学環境防災研究センター 准教授

※河口 洋一委員、田中 俊夫委員、田村 隆雄委員、松村 豊大委員、山中 亮一委員は、所用により欠席となりました。



中野 議長



木下 委員



上月 委員



柴折 委員



平井 委員



角道 委員

●委員からの主な意見

○浸水災害、洪水発生の危険度が更に上がってきている中で、治水事業・河川整備の事業は非常に重要であるため、確実に、スピードをアップしながら、進捗していただくことが非常に重要である。その意味で定量的な数字で確認していく作業が非常に重要である。

○内水外水一体型浸水リスクマップの作成について、外水も心配だが、内水も非常に心配しているので、適宜進捗を情報共有していただきたい。

○昨年度、ヤマセミの生息確認と繁殖を示唆するようなデータをとって頂き非常に貴重な調査記録となった。今後は、吉野川流域においてもヤマセミの保護に向けた取り組みを計画の中に織り込んでいただきたい。

○8月から9月にかけて水辺を彩る非常に美しく重要な種であるギボウシという植物があり、工事期間中に発見した場合は、保全することが重要である。

○洪水調節、濁水調整等の取組は素晴らしい結果となっているため、様々な方にも分かるように、そして、もっと流域の良さや意義が伝わるように広報することが必要。

○全ての取り組みに有機的な連携を図り、流域治水の実効性を高めるために、ハード対策と同じ土台の上に議論できる環境を整えることが大事だと考えている。具体的には、事業規模と効果、費用対効果の優れる事業場所、効果を得るための適切な具体的手法、効果が発揮される必要な年月などを関係機関に働きかけて定量的な調査・研究、データの蓄積を進めることが必要である。



岡村 委員



鎌田 委員



金原 委員



武藤 委員



山中 委員

●早明浦ダム現地調査



●【令和5年度 第1回 吉野川学識者会議】の会議資料は、徳島河川国道事務所のウェブサイトからダウンロードすることができます。

編集・発行：国土交通省四国地方整備局
住所：徳島県徳島市上吉野町3丁目35

徳島河川国道事務所 <https://www.skr.mlit.go.jp/tokushima/>
電話番号：088-654-2211（代表）